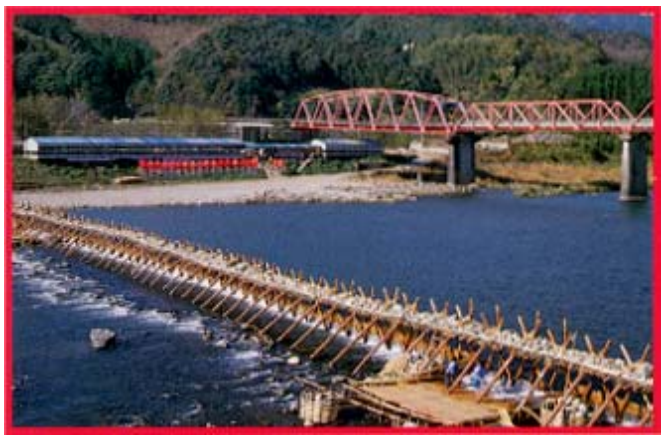
緑豊かな九州山地の恵みを受けて
育つ川のさかなたち
その川のせせらぎの中に
川魚の一生がある。



（アユやな）

ア　ユ　【鮎】　アユ科

1年魚で幼魚期を日向灘の沿岸域で過ごした後、春に県内の河川を上がり成長し、夏には釣りの対象として太公望に親しまれ、秋に産卵のため川を下り始めます。その習性を利用して獲る「やな」は、秋の本県観光の目玉となっています。
また、養殖も耳川や大淀川流域などで盛んに行われ、全国5位の生産量があります。

主 な 漁 法　：釣り、養殖
漁期（盛期）：6～12月（6～10月）
主 な 漁 協　：五ヶ瀬川、耳川、大淀川

ウナギ　【鰻】　ウナギ科

本県では、冬季にウナギの稚魚であるシラスウナギが海から県内河川を遡上（そじょう）し成長します。
また、養殖も佐土原町や新富町などで盛んに行われ、全国4位の生産量があります。

主 な 漁 法　：筒漁、養殖
漁期（盛期）：周年（7～8月）
主 な 漁 協　：佐土原町、新富町

ヤマメ　【山女】　サケ科

県内河川の渓流部に生息し、また五ヶ瀬町を初めとする上流部では養殖も行われています。
北日本では、サケと同じように川を下って成長しますが、本県のヤマメは平地や海の水温が高いため降下せず、一生川で育ちます。

主 な 漁 法　：釣り、養殖
漁期（盛期）：3～9月（3月～5月）
主 な 漁 協　：五ヶ瀬川、耳川、小丸川